

能登半島地震復興支援交流会

令和6年1月1日に発生した能登半島地震からまだ2年となります。昨年に引き続き、新潟県日赤有功会（佐藤明会長代行）と日本赤十字社新潟県支部は、能登半島地震の復興支援活動として石川県を訪問、被災地へ記念品の贈呈とJRC加盟校の石川県立七尾高校や輪島市内の仮設住宅で交流会を行いました。

被災地からの声



交流会、すごく楽しかったです。チアリーダーが元気に踊ってくれたので、こちらまで明るい気持ちになりました。仮設住宅の生活が長いと言っていても仕方ないので、「明るく、笑って、元気いよう」とみんなで話をしました。

現在、お家を買われるなど少しずつ仮設住宅から出て行かれる方も増え、不安をかかえる方もいらっしゃいます。けれども、そういうところを見せずに、みんなで励まし合って頑張っています。新潟から来てくれて、ありがとうございました。

輪島市稻屋町第一団地 大窪 真子さん



私たちが普段おこなっているダンスジャンルが違うので、少し不安がありましたが、チアリーダーズの皆さんにすごく明るく、楽しく教えていただけて私たちも楽しめましたし、この機会にチアダンスもみんなでやってみたいなと思ったので、すごくいい経験になりました。

チアリーダーズの皆さんの笑顔には、すごく明るく元気な気持ちをもらいましたし、助けられたので、笑顔で踊ることをチームで取り入れていきたいと思います。

石川県立七尾高等学校 2年 谷口瑛音さん

記念品贈呈の様子



仮設住宅での交流会の様子



杉平第一団地



稻屋町第一団地



新潟県日赤有功会並びに日本赤十字社新潟県支部の皆さんには、遠方から輪島市へお越しくださいまして、誠にありがとうございました。ご寄贈いただいたデジタルサイネージや血圧計は、市民の皆様にご活用いただくことができますので、大変感謝しております。

まもなく震災から2年が経過しようとしておりますが、引き続き被災地の復興にご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

輪島市役所 健康福祉部長 河崎 国幸さん

日赤にいがた NEWS

NISSEKI NIIGATA

第10号



CONTENTS

赤十字こども・若者みらい会議視察研修／各種研修／大阪・関西万博赤十字パビリオン／石川県復興支援交流会



大阪・関西万博 赤十字パビリオンスタッフとして活動しました！



大阪・関西万博 赤十字パビリオンに新潟県支部職員2名が協力スタッフとして活動しました。

パビリオンには会期中約31万人の方々が訪れ、世界の人道危機に立ち向かい、そして立ち上がる人々を感じいただきました。

パビリオンでの体験を通じて、人が人を思いやることの大切さを感じていただき、誰かのためにアクションを起こすきっかけになることを祈っています。



活動した佐藤 未結さん、
平島 環さん

日本赤十字社の活動はボランティアのみなさまによって支えられています。

赤十字活動に興味がある・ボランティアに参加したいという方はぜひお問合せください。



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

〒951-8127 新潟市中央区関屋下川原町1-3-12
TEL 025-231-3121 FAX 025-231-3122
E-mail humanity@niigata.jrc.or.jp <https://www.jrc.or.jp/chapter/niigata/>



赤十字こども・若者みらい会議 視察研修

赤十字こども・若者みらい会議は、「地域課題を解決し、未来をもっと明るくすること」を目的に、高校生と大学生が活動に取り組んでいます。活動テーマは、「防災・減災」です。

8月と9月に福島県を訪問し、東日本大震災の被害や、発災から14年経った今の復興状況について学びました。

▶ 浪江町立請戸小学校

福島県唯一の震災遺構である浪江町立請戸小学校を訪問しました。

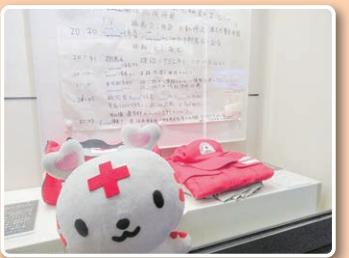
校舎の1階部分は震災当時のまま保存されており、被害の甚大さを目の当たりにしました。



当時津波が到達した高さ

▶ 東日本大震災・原子力災害伝承館

展示品を通して、原子力災害の被害や復興への歩みについて学びました。



発災当時、日赤新潟県支部の職員が救護活動にあたった記録も展示していました。

▶ 福島県JRCメンバーとの交流



県境を越えた防災活動について、福島県のJRCメンバーと考えました。



▶ コミュタン福島

福島県の環境や放射線について様々な体験を通して学びました。



参加者からの感想

伝承館では、私たちが被災地に足を運ぶことは、街を活性化させ、復興に繋がるので大切だと学びました。また、請戸小学校の津波到達時刻3時37分で止まった時計が印象的でした。東日本大震災の影響が今もなお続いていること、忘れてはならないと強く感じました。移動の際に、表面的な復興と内面的な復興の進度の差を目の当たりにしました。現地に行くことで自分の中での被災地に対する関心が高まりました。この体験を多くの人に知ってもらえるように活動していきたいと思います。

新潟県立新潟中央高等学校 水沢 佐彩さん

今回の研修を通じ、参加者は震災の教訓を次世代へ伝えることの重要性を感じました。

今後は、学んだ知識をSNS等で広く発信していく予定です。



青少年赤十字リーダーシップ・トレーニング・センター

夏季期間中、青少年赤十字加盟校を対象に、リーダーシップ・トレーニング・センターを実施しています。

児童・生徒の「リーダーシップ」や「やさしさ・思いやり」を育むことを目的として県内5地区で実施し、総勢235名が参加しました。

今年は主に防災に関連するプログラムを実施し、災害時の周囲との協力やコミュニケーションについて学びました。

避難所を想定したワークショップでは、続々とやってくる避難者をどのように配置するか、避難所で発生する出来事にどのように対応するかについてグループで話し合いました。

また、段ボールベッドやテントなどの災害グッズも体験し、災害発生時の生活について理解を深めました。

活動を通して参加者は、相手の立場に立って考えることの大切さを感じていました。



防災教育事業指導者養成研修



今年度当支部では、防災学習を県内に広げることを目的とした研修会を開催しました。

7月5日(土)、6日(日)の2日間にわたりて実施し、赤十字ボランティア15名が、日本赤十字社が作成した防災教育プログラムを受講しました。

これらの防災プログラムは、要望のあった地域自治体や学校等へ指導者を派遣し、実施することが可能です。

災害の規模が大きくなればなるほど、救える命は少なくなります。

一人一人が正しい知識を持ち、「自助」と「共助」の力を高める方法を知ることで、災害からより多くの命を守ることができます。

これからも赤十字は命を守る活動を進めてまいります。

赤十字の防災セミナーの詳細はこちらから→



受講者

大屋 柳平 さん



近年、防災教育の需要が高まっています。しかし、わたしを含め、佐渡に住む方々には防災への備えに対する意識をより高める必要性を感じています。自然が相手ですので、今後未曾有の災害がいつ起こるか分かりません。指導講師として、今回の研修で学んだプログラムを基に、防災に対する意識を高め、多様な災害に対応できる心構えと備えと一緒に考えていくように努めさせていただきます。

防災教育事業主任指導者
菅家 秀一 さん



防災教育事業指導者養成研修会を通じ、防災教育の重要性と地域における指導者の役割を改めて認識しました。実践的な演習や意見交換を通して、参加者の主体性を引き出す指導法を学ぶことができ、大変有意義でした。今後は、地域の学校や自治会などでの防災講座や訓練の支援を通じ、住民一人ひとりが自ら考え行動できる防災意識の醸成に努め、安心・安全な地域づくりに貢献してまいります。